

(財)日本学校保健会「足の健康に関する調査研究委員会」

慶應義塾大学総合医学研究センター整形外科教授
(日本靴医学会理事長) 井口 傑 委員

(財)日本学校保健会の「足の健康に関する調査研究委員会」(委員長=江口篤壽・筑波大学名譽教授)は、日本教育シユーズ協議会(JES)の協力を得て、三次元計測器を用いた「児童生徒の足」実態調査が目標です。最大の特徴は足長・足幅だけでなく、足閉やアーチと呼ばれる舟状骨の高さも三次元的に計測する点。これらを実際に計測したデータは、これまでにはありません

さらに、運動や遊びがどのように足と関連しているかなどを調査する。同時に靴を1年に何回取り換えるかといった靴に関する使用状況などもアンケートで調査する予定だ。

「計測委員の講習会には、JES会員などの約30人が参加。足置きテスターとコンピューターを併用し

「児童生徒の足」実態調査へ

児童生徒の足に関する実態調査」の準備を進めている。

委員の井口傑・慶應義塾大学教授(日本靴医学会理事長)によると、今年8月24、25日には実際に計測に携わるボランティアの計測委員講習会もすでに終了。その後、レントゲン結果と比較した同計測器の精度の検証を行っており今後3年間くらいかけてデータを収集するという。

「本調査の対象は、小・中・高校の児童生徒。最少でも1200人のデータ収

1200人以上対象にデータ収集

た三次元計測器を用いて互いの足を計測し合い、計測方法や調査の意義、足の医学的知識に加え、子どもの身体のさわり方などを学習していくいただきました」

また講習後、これら計測委員は病院で自分の足のレントゲン撮影を行った。

「これは三次元計測器によるデータが、レントゲン撮影を行った。

学校現場をはじめ医師側もいました。現在、両者の測定結果を比較し、相関を検討しているところです」

学校現場をはじめ医師側からも外反母趾や偏平足など、子どもの足にさまざま

「調査は、本格的には来年4~6月の健康診断時を中心

学校現場と医学分野の橋渡しに

ヤマハスポーツ文化フォーラム

ヤマハスポーツ文化フォーラム2007が2月9日、東京都千代田区の九段会館、2月16日、大阪市のテイジンホールでそれぞれ開かれる。

プール事業30年を迎えたヤマハ発動機(株)がプールの可能性を広く訴えるために99年から全国各地で開催しているもの。

今回のテーマは「われらは海の子—水泳でたくましい人づくり」。少子化や子どもたちの体力低下が叫ばれる現代にあって、子どもの成長に不可欠な運動として水泳を再検証する。

パネルディスカッション「われらは海の子—水泳でたくましい人づくり」と「安全なプール環境を目指して」を

なトラブルが増えていることが指摘されているが、医師が現実にこのような足の外観の計測に関わったことは過去にも例が少ない、と井口委員は言つ。

「今回の調査は、学校現場と医学分野との橋渡しにいかないので、大人のボランティアの方々に協力して、ために計測の意義、方法、非侵襲性などについて説明書を作製し、依頼文書作りにも取り組んでいる。

「調査は、本格的には来年4~6月の健康診断時を中心